

高3の冬休みの勉強法

英語

国公立大学を受験する人にとって、第一関門になるのが共通テストです。冬休み、まずは共通テスト対策をしっかりしましょう。リスニングについては、耳慣れさせるためにも、できたら毎日、短い時間でいいので、英語の音声を聞くように努めましょう。英語の音声はリスニング対策の教材でなくても、NHKのニュースを英語の副音声で聞くのもいいでしょう。

また志望校（特に私学）の過去問に取り組みましょう。時間を必ず計測する事！志望校によって、出題傾向が異なるので、その大学の出題形式に慣れることが大切です。またその出題形式に対応するための勉強にも取り組みましょう。会話文形式の問題が出題されるのであればその問題演習を、文法問題が多く出題される場合は文法問題に多く取り組むなどし、志望大学に合わせた勉強をしましょう。

長文読解に必要な背景知識を身につけておくことも大切です。背景知識があれば、初めての文章でも圧倒的に読みやすくなります。せめて新聞・ニュースは毎日、チェックしておきましょう。

国語

現代文

現代文は過去問を使って、問題演習を中心に取り組むこと。時間内に文章を読み、問題を解き終わらせるようにすること。時間配分も意識して取り組むと、入試本番でも時間内に解き終わらせるようになるものです。

答え合わせの際に「自分が読み取った文章の意図が合っていたか」「解答へ至った理由が正しかったか」なども細かくチェックすること。問題を解くのと同じぐらいのエネルギーで解説を読めば、実力はアップします。

古文

古文も過去問を使って、問題演習を中心に取り組むこと。本文は必ず音読をしてください。一文を読んだら、必ず「誰が」「何をしたか」を考えること。古文は単語と文法の知識があれば、多くの問題が解けるようになります。まだ単語と文法の基礎ができていない場合、集中して覚えるように。

漢文

漢文も古文と同じように、基礎知識の暗記で多くの問題に対応できます。句法を頭に叩き込み、一文を読んだら、必ず「誰が」「何をしたか」を考え、問題演習をくり返してください。本文は必ず音読をしてください。また、絶句や律詩などの漢詩の知識もまとめておくこと。

小論文

まず、受験大学の過去問を赤本・ウェブサイトなどで探してください。書店に行き、自分の受験大学の傾向に適した本（参考書・問題）を探してください。自分に適した参考書を探すのも勉強になります。

参考書、問題集をよく読んで、自分で何度も書いてください。また、問題文の内容を100字程度で要約すること。自分で書いた文章は必ず音読してください。音読すると自分の書いた文章を客観的に読むことができ、誤字、脱字などに気がつきます。

数学

黒本など、共通テスト対策問題にひたすらチャレンジ！！できるだけ初見の問題に挑戦し、共通テストに向けて訓練しよう！！共通テストは訓練です。しっかりと準備・練習すれば必ず点が取れるようになると思います。2次試験の数学は多少数学的な思考・応用力が必要となりますが、共通テストは数をこなすかどうか、点が取れるかどうかの分かれ目になります。めげずに演習！でも、やり直しの時間は絶対に時間を取って取り組むこと。

日本史

基本的には今まで通りで良いと思います。「一問一答」を利用してのインプット作業ばかりではなく、問題集を使ってアウトプットの練習もしよう。「流れが分かる〇〇」シリーズを読むのも良いですが、とにかくアウトプットの練習がこの時期は必要。「どの問題集が良いか？」「本屋に走って下さい」。(自分で決めて下さいという意味です)

何をして良いか分からず困っている人へ。今からでも遅くないから「ゼミナール日本史」の総復習をしてみてくださいでしょうか。大上段に振りかぶって分厚い参考書をやろうとしても、覚えきれなかったら意味なくないですか？内閣の順番言えますか？浜口雄幸の次の首相は誰ですか？全時代まんべんなく基本的な語句を覚えた方が合格に近づくのでは？

世界史

【学習方法】

基本的な学習方法はこれまでと同様です。「インプット（一問一答／ゼミナール世界史）」と「アウトプット（実践問題集）」を効果的に組み合わせましょう。

- ・基本事項が頭に入っている人
 - ① アウトプット（実践問題集）→②インプット（ゼミナール世界史）
- ・基本事項に自信がない人
 - ① インプット（ゼミナール世界史）→②アウトプット（実践問題集）

【連絡】

第二次世界大戦後の戦後史について、12月26日（月）・27日（火）に講義を行う予定です（後日、希望調査票を配付します）。

地理

地理の学習ですべきことは、共通テストの過去問を解くことです。古すぎるものは注意して、追試も予想問題も解きましょう。もちろん、漫然と解説を読んでも得点力に変化はありません（センスのある人はこれだけで変化しますが）。…つまり今までと変わりません。

一般的な話ですが、時間は限られているので、自分の得意/不得意分野を意識することも大切です。ここまでくると、どこで1点を削り出すかが問題ですので、強いて言えば、苦手分野に伸びる余地があるとも言えます。自分のクセ、傾向や、投入する労力とのバランスを考えてみてください。

政治・経済

毎日、少しずつ（1時間ぐらい）やってみましょう。

今まで使ってきた問題集でいいので、要点整理のできるようにしましょう。

あと、どこかで過去問をやっておきましょう。数年分、追試験も含めて。

模試などを振り返って、自分の苦手な分野を再度復習しましょう。

倫理

- ・目標得点に応じて、学習に充てる時間を考えましょう。
- ・受験で使う日本史、世界史の分野をまずは仕上げていきましょう。
- ・過去問を解いて、どの分野・時代の理解・暗記ができていないかを抽出しましょう。
- ・「早く、何度も繰り返す」ことで、理解と記憶の定着が進みます。
- ・資料集の人物紹介を読むなどして、イメージを持って人物の思想の理解をしましょう。
- ・頻出の人物、用語を優先的に学習しましょう。
- ・困ったことがあれば、classroomから連絡をしてください。
- ・最後の最後まで、みんなは成長できます。不安もあるでしょうが、やるのみです！

物理

第一に共通テスト問題対策の問題（補習参加者にはプリントで配布済み）を解くこと。国公立大や共通テスト利用私大を受験する者が大半であると思いますので、この共通テストでどれだけ得点できるかが今後の受験校決定に大きく影響を与えます。何よりもまず大学入試センター試験や共通テストの過去問や対策問題を解きましょう。その際に必ず制限時間を設けて解くこと。

解答が出せた場合も、手が付けられなかった場合も、自分で設定した時間内に何をするかで本番で使える力が付くかどうかが変わります。自分が出した答えの根拠は何か。解き始められない理由は何か。ヒントが見えないのか、公式を覚えていないのか、現象を理解していないのか。制限時間内にやったことを書き残してください。ミスが起こる理由を知り、一つずつクリアしていく姿勢を確立させてください。

闇雲に問題数を重ねることよりも、一題ずつしっかりと振り返りをする。必ず解説を読み、何を理由に解答方針を立てたのか確認をする振り返りをする。その振り返りを通じて、各単元の頻出ワード、頻出パターンを整理し、記述力をつけることを意識すること。解いた問題数が多いことより、どんな問題を解いて、そこから何を掴んだのかが重要です。諦めずにやり続けましょう。諦めなかったことを本番で思い出せれば、本番での心の支えになる事でしょう。

化学

今まで取り組んできた参考書・問題集を信じて、その中からできない問題がなくなるように取り組んでください。できる問題とできない問題が仕分けられている人は、できていない問題だけを集中的に取り組んでください。

国公立志望の人はまずは徹底的に共通テスト形式の対策をしましょう。過去問や予想問題を用い、時間内にどれだけとれるか、どこで時間を短縮するかなど戦略を練ってください。

私立志望の人はとにかく過去問に取り組み、対応・対策・戦略を練りましょう。

（戦略とは有機が得意だから先ず有機から解こう。理論は時間がかかるから後に回そうなど）

化学基礎

年内は、今までに受けてきた定期考査・模試と今まで使ってきた問題集の解き直しをするのが良いと思います。頭の中が整理できると思います。一度見た問題なので、新しい問題をやるよりも取り組みやすく、短い時間で効率よく復習できるはずです。解いた後は、採点だけでなく、必ず解説に目を通しましょう。解説に大事なことが書いてあります。手が回らない人は片っ端から解説を読むだけでも良いかもしれません。

年明けからは、時間を見ながら実践演習をしましょう。共通テストは時間との闘いです。難問に時間を使いすぎて、本来できるはずの問題で失点しないことが大切です。必要な得点率をもとに、戦略を練りましょう。たとえば7割を目標とした場合、3割失点できるとも言えます。50点分すべての問題で勝負する必要はないのです。難問の2問を捨てて43点分を解いて8割正解すれば $43 \times 0.8 \div 34$ 点取れます。これではほぼ7割です。捨てた2問もマークして、たまたま合っていたら $+\alpha$ の得点となります。要は、できる問題で確実に得点することです。すべての問題を解くのが理想ですが、現実はその必要はない。捨てる問題があっても良いということです。本番で思い切ってこの決断ができるように、シミュレーションしておくが良いと思います。さらに言うと、化学基礎で7割の35点を取る必要もなく、生物基礎で40点取れるなら30点が良いのです。また、地歴で8割取れるなら、理科基礎は6割が良いこととなります。ガチガチに焦る必要はありません。

1点でも多くとるといふ姿勢は絶対必要ですが、そのためには捨てる勇気も必要です。矛盾しているようにも見えますが、「肉を切らせて骨を断つ」です。3割失点しても合格すれば勝ちなのです。

生物・生物基礎

皆さんがまず立ち向かわないといけない壁は、何ととっても共通テストでしょう。ですので、ここでは、共通テスト対策を中心に述べたいと思います。

過去2年間の共通テストの問題を見てみると、驚くほど基本的な内容を聞かれています。ここで言う「基本的な内容」とは、ずばり「教科書にそのまま載っている内容」です。ですので、生物・生物基礎では何よりも基礎基本の問題をどれだけ確実に正解できるかが、勝負の分かれ目になります。やみくもに難しい問題に手を出すより、教科書にそのまま、何のひねりもなく載っている内容をどれだけ確実に理解し、覚えているかを確かめてください。もし理解できていない、うろ覚えでしか覚えていないところがあれば、そこが、あなたが勉強しないといけないところです。高得点をとれる子は、難しい問題を解ける子ではなく、基本的な問題をほぼノーミスで確実にとってくる子です。そういう子が第一志望校合格を勝ち取っているのです（生物・生物基礎に限った話ではないでしょう）。

ただ、共通テストの生物・生物基礎の問題は結構独特なところがあります。まず、読まなければいけない問題文の量が多い。聞かれていることの内容はそんなに難しくないのですが、読みこなさないといけない問題文が多く、時間がかかり、疲れる。その割に生物は60分・生物基礎は化学基礎と抱き合わせで60分（だから単純に時間配分したら30分）しか制限時間がなく、時間に追い立てられながら問題を解く、というような状況になるでしょう。だから、過去問をしっかりと時間を計りながら解いて、問題を解くペースをつかんでおいてほしいと思います。「共通テストは歴史が浅いから過去問がそんなにないじゃないか。」と思っている人は、共通テストに切り替わる数年前のセンター試験は、だいぶ共通テストを意識した問題のつくり、似た感じの問題になっていましたので、そのときのセンター試験の問題を解く、というのも一つの方法だと思います。

皆さん悔いの残らぬ準備をして、本番のテストに臨んでください。皆さんの健闘を祈っています。